

## 5年次生対象のオール英語の講演会がありました。

6月14日(水)、5年次生(高2)を対象にアフガニスタン人留学生(茨城大学大学院農学研究科在籍)のアハマディーさん(27)による講演会がありました。全て英語での講演でしたが、生徒の皆さんは一生懸命聴いていました。質問も英語でしていました。その記事が、6月29日付けの読売新聞に掲載されました。電話取材で「次代の日本や世界の発展を担う『人間力』を備えたグローバルリーダーの育成を目指しています」とお話ししたところ、校長先生の考える『人間力』とは何ですかと聞かれたので、下のように答えました。なお、東京大学現役合格5名は、昨年度入試の数字であり、今春の今年度入試では、現役で7名が合格しています(ドリーム第203号参照)。

## 外国人と交流し国際理解



母国の実情を語るアハマディーさん(左) (つくば市の県立並木中等教育学校で)

地球規模の課題対処へ



教育ルネサンス

県立並木中等教育学校(つくば市)が、国際理解教育に力を入れている。県内の公立学校で唯一のユネスコスクールで、外国人との交流を通じて、地球規模の課題に対処できる人材育成を目指している。

### つくばの並木中等教育学校 思いやりの心培う

「私の国では貧困が原因で、高等教育が受けられない。みんなはラッキーだ」  
14日に並木中等教育学校で行われた、茨城大との高大連携事業。同大のアフガニスタン人留学生、サテクラ・アハマディーさん(27)が、5年次(高2)の生徒を前に、母国の実情について英語で語った。  
アハマディーさんは同大大学院農学研究科に在籍し、動物細胞工学が専門。アフガニスタンは戦乱と干ばつで食料自給率が低下したといひ、「農業の生産性を向上させて自給率を上げ、貧困をなくしたい」という。  
講演を聞いた三舛伊吹さん(17)は「教科書よりもリアリティーのある話を聞いて勉強になった。貧困問題を解決するために茨城で農業を学んでいるというのは驚いた」と話した。アハマディーさんは「母国の状況を熱心に聞いてくれた。(生徒は)両親と政府に感謝して一生懸命勉強してほしい」と語った。  
並木中等教育学校は2008年に開校した、県内初の公立中高一

ユネスコスクール 諸国民の協力を促進して平和に貢献するというユネスコ憲章の理念を学校現場で実践するため、1953年に発足した。世界で約1万校、日本では小中高校など1043校(2017年4月現在)が加盟している。県内では並木中等教育学校と茨城キリスト教学園中学校(日立市)の2校。

貫校。昨年度の東大現役合格者は5人と進学実績を上げており、次代の日本や世界の発展を担うグローバルエリート育成を目指して09年にユネスコスクールに加盟した。4年次(高一)で、希望者はニュージランドで2週間のホームステイを行う。5年次(高2)では修学旅行で台湾に行き、現地校と交流する。国際理解を深めるためだ。  
今年度はすでにニュージランドやマレーシア、韓国の中高生が来校。英語で学校紹介をしたほか、書道や折り紙、剣道、茶道などを体験してもらった。  
中島博司校長は「単にコミュニケーション能力があるというだけでなく、他者と接すること、思いやりの心や相手の立場を理解するといった『人間力』を培ってほしい」と話している。

◆二〇一七年六月二十九日付 読売新聞 より

◆お知らせ◆本校の「TO学習」の取組が「Yahoo!ニュース」に掲載されています。ドリーム第248号で紹介した茨城新聞の記事がピックアップされました。検索してみてください(∩o∩)。